



国際

沿岸レポート

第1回 日韓沿岸技術 研究ワークショップ

The 1st KIOST-PARI-CDIT-WAVE
Joint Workshop



一般財団法人 沿岸技術研究センター
企画部 主任研究員 山本隆信

はじめに

独立行政法人港湾空港技術研究所(PARI)は、2001年から2010年まで計6回の日韓干潟ワークショップの開催や、国際沿岸防災ワークショップなどを通じ韓国海洋研究院(KORDI) (現在の韓国海洋科学技術院(KIOST))と協力関係にありました。また、一般財団法人みなと総合研究財団(WAVE)もKIOSTと多くの交流があり、2012年11月に「沿岸技術分野の協力覚書」が締結されました。

一方、沿岸技術研究センター(CDIT)は、2009年にKORDIと研究協力協定を締結し、それを記念してその年に第1回日韓沿岸防災技術研究ワークショップを韓国で開催し、その後は日本と韓国で交互に年に1回、計4回開催してきました。

このように、それぞれ個別にKIOSTと交流のあった日本の3団体は、今回初めて協同してKIOSTとの合同ワークショップを開催することとし、第1回ワークショップが韓国で行われました。

活発な議論が行われたワークショップ

本ワークショップに韓国から、朴俊權 海洋水産部港湾局長、李東源 港湾協会会長、尹炳求 国際航路協会(PIANC)会長、房奇嫻 漁村漁港協会会長、李在完 海洋企業人協会会長、韓国海岸海洋工学会長、韓国沿岸防災学会長のほか、大学教授や学生等の学界、建設会社等の産業界などから多くの方々に参加され、総勢約130人と盛大に開催されました。

最初に韓国海洋科学技術院の姜正極(カン・ジョング)院長による「KIOSTのビジョンおよび役割について」と題する基調講演が行われました。この基調講演では、韓国の海洋沿岸分野における研究開発に対する、今後の取り組みなどが述べられました。

引き続きワークショップでは、「沿岸防災」、「沿岸管理」、「沿岸

環境」、「技術開発・普及」の4つのテーマに関する最新の研究成果について、日韓両国から発表が行われました。

「沿岸防災」では、津波や防波堤に関する技術、油濁対策などの発表が行われました。「沿岸管理」と「沿岸環境」では、生態系などの海域環境や汀線移動・海岸浸食に加え、ブルーカーボンの研究成果等が発表されました。また、「技術開発・普及」では、サクシオンパケット基礎やフラップ式陸閘の研究等が発表されました。

各講演者に対して、韓国の出席者から多くの質問が出され、予定時間を大幅に超過して活発な議論が行われました。(写真1)



写真1 ワークショップ関係者一同

始華湖潮力発電所の視察

ワークショップの翌日、韓国海洋科学技術院の技術研究所やARA運河なども視察させていただきましたが、本誌では、始華湖潮力発電所について紹介いたします。

始華湖潮力発電所は、ソウルから南西へ約40kmの始華湖と西海の間に建設された防潮堤に立地しています。大潮で9.16mの潮位差があり、その潮位差を利用してプロペラを回すことにより、発電を行います。始華湖潮力発電所の発電設備容量は、タービン(写真2) 10基合計で254MW、年間発電量は552.7GWhとなります。

発電を開始すると静穏だった海面に渦が巻き、見学者からどよめきが起きました(写真3)。再生可能エネルギーによる発電は、わが国でも注目されている分野であり、日本の視察団から多くの質問が出されました。



写真2 発電断面模型



写真3 発電中の水面状況

おわりに

KIOSTの姜正極院長、PARIの高橋理事長、WAVEの金田理事長はじめ、今回ご講演いただいた皆様、また現場視察等でお世話になりました皆様に、厚く御礼申し上げます。